

## 「洗礼は世界を救う」

主任司祭 晴佐久昌英

今年の復活徹夜祭、高円寺教会では84人の受洗者が誕生した。神の子として新たに生まれた皆さんには心から「おめでとう」と言いたい。無事に弟や妹が生まれた時の兄や姉のように、今教会家族は大きなよろこびに包まれている。しかし、赤ちゃんが無事に生まれたことを誰よりもよろこんでいるのは生んだお母さん自身であるのは言うまでもないことであり、その意味ではまず神様にお祝い申し上げるべきだろう。お母さん、ご苦労さま。おめでとう。そして、本当にありがとう。

受洗者の数を聞くと、皆一様に驚き、皆同じような質問をする。「どこからそんなに」「どうやってそんなに」。「どこから」って、周りを見れば必死に救いを求める大群衆がさ迷っているではないか。「どうやって」って、教会が二千年間続けてきたように、神の愛を告げキリストを伝える以外の方法があるはずもない。

また、「そんなに」と言うけれど、これは驚くような数ではない。聖書には、使徒ペトロが福音を語ったら、その日三千人が洗礼を受けたと書いてある。以来二千年間神は働き続け、現在のカトリック信徒は十億七千万人。千五百人の信徒が祈りと奉仕を捧げる高円寺教会の潜在力は、まだまだこんなものではないはずだ。今日もまたぼくらは、あの日のペトロと全く同じ福音を告げ知らせているのだから。

問題は、ぼくらがペトロと同じように神の業を信じているか、キリストの復活に希望をおいているか、聖霊の宿る教会を愛しているかということにつきる。この恐れと暴力に満ちた世界のただ中で「ほんとうに確かなもの」を信じているか、洗礼の秘跡に希望をおいているか、ということにつきる。キリスト者自身がそのように教会を愛し、秘跡のちからを信じていなければ、誰がその仲間になりたいと思うだろう。

「ほんとうに確かなもの」のない世界を、地獄という。ぼくらもまた、かつてその地獄で死んでいたのではなかったか。そこへ神が手を差し伸べ、洗礼によって生きるものとしてくださったのではなかったか。洗礼は、世界を救う。まず、信じることから始めよう。